

フカラ何トモ見當ノ付カヌ様ナ大變ナ標品(トハ言フ能ハザルモ)ヲ送ツテ來ルノデアラフト思フ、送ツテ來ル人ハコンナモノハツマラヌモノダラフト思フト云フ事ハ能ク聞ク事デアアルガツマルカツマラヌカガ分ル位ナラ送ツテ來ル必要ハナイト云フ理屈デアアルカラドレモ是モ皆新種デ定メシ面白イ研究資料トシテ送ルノダト思フテ完全ナモノヲ送ル様心懸ケテ下サルコトヲ希望スル次第デアル

○植物妖怪漫話

久 内 清 孝

あけびノ花

あけび屬ノ花ハ無花瓣デ莖丈ノモノガ多ク然モ何レモ偏性花デアアルコトハ周知以上ノ事實デアアル、シカシコレハ表向キノ場合デアツテ一步裏ヘ廻ツテ見ルト稀デハアルガ花瓣ガ出現シテ居ルノモアル、其事ニ就テハ既ニごえふあけびノ場合ニツキ牧野先生ガ指摘サレタ様ニ記憶スル然シテコノ花瓣ノ發現ガ確實ニナツタ場合即チ何レノ雌雄花モ有瓣ニナツタモノヲ東京近郊ノ石神井デ得ラレタ中井博士ハ之ヲ一ツノ特徴ト考ヘテ其レニ *Akebia pentaphylla* MAKINO var. *diplochlamys* NAKAI ノ新變種名トほながあけびノ新和名トヲ與ヘテ其圖說ヲ新撰植物圖編第四編ノ第六集ニ掲ゲテ居ル

然ルニ余ハ本年(昭和六)あけびノ雄花ニハ何等異狀ヲ認メザルモ雌花ニ完全ニ花瓣ガ出現シ更ニ雌藥ノ外ニ雄藥マデ出來テ居ルモノヲ探ツタ、ツマリ雌花ガ有瓣ノ兩全花ニナツタモノヲ得タノデアアル、シカモ其ナリ方ハ決シテ「インチキ」デナク立派ニ出來上ツテ居ルノデアアル、其標本ハ後日ノ爲余之ヲ藏シテ居ル

【牧野曰フ】久内君ノ此ニ述ベラレタヤウナ普通ノあけびノ兩被花ノモノヲ私モ亦今カラズツト以前ニ武州石神井ノ三寶池ノ畔デ採リ其標本ガ私ノ Herbarium ノ中ニ存スル、之レハ普通ノあけびニ出來タモノ故私ハ

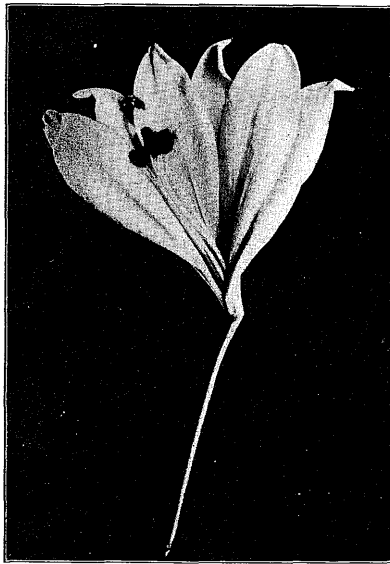
之ヲ *Akebia quinata* Decne. var. *diplochlamys* Makino. トスル

おしろいばなノ八重咲

おしろいばなノ八重咲ニ就キ本誌六ノ十一ニ報ジテヲイタ處牧野先生ハ之ニ var. *concolor* Makino ノ變種名ヲ下スト附記サレタガ後ニ至リ先生ハ var. *dichlamydomorpha* Makino (ふたへおしろいばな) トシテ本誌七ノ三ノ歐文欄ニ發表サレタカラ後者ガ有效ノ名デアラウ

余ハ本年之ヲ既報シタ場所ノ外東京市外蒲田小學校構内ニ二株、小石川植物園近クノ東京聾啞學校裏門前ノ米屋ノ隣デ一株見付ケタガ余が見タ範圍デハコノ現象ハ白赤ノ絞リニ限ルノデハナイカト思ツタガ松崎直枝氏ハ赤ニモアルトノコトマタ持主ハ何レモ實生ダト云フカラ遺傳學者ニハ面黒イ材料カモ知レヌガ或ハ既ニ御存ジ

カトモ思フ



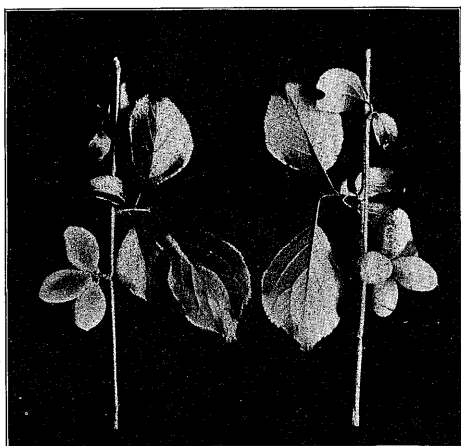
てっぽうゆりノ變リ咲
(久内撮影)

【牧野曰フ】右ノ者ヲ私ハ昨年ト今年ト東京市外ノ池

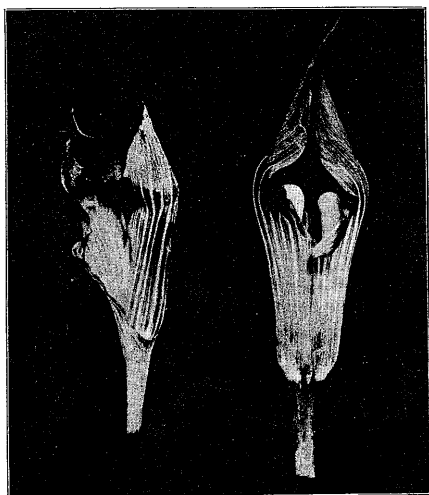
袋ノ同一地點デ得タガ其地ニ生エテキタ數個ノ株ハ其花ガ白色ニ紅紫點ノアツタモノダツタガ其枝ノ中ニハ全然紅紫色ノ花ヲ開イテキルモノモ交ツテキタ、此様ナ品ハ以前ニハ見ナカッタガドウシテ出来タモノカ其來歴ガ知リタイガ誰レカ知ツタ方ハ世間ニナイノカ

てっぽうゆりノ單對型花

普通ナラ多對型ニ咲クナルてっぽうゆりノ花ガ單對型ニ咲キタルイトオカシトデモ言ヒタイ例ガアル、花蓋



座 論 梅
(久内撮影)



まむしぐさノ花二型
(久内撮影)

ノ數ナドガ異ルナドト言フノデハナイガ一見イカニモ面白ク見エルノデ茲ニ紹介スルコトニシタ、勿論余ニ珍
ラシイト云フ丈アルカラ其珍ラシイト云フ感ヲ他人ニ強要スルノデハナイガ何卒お見知り下シ置キヲ願ヒ
タイ、材料ハ昭和六年四月横濱市ノ教材園カラ得タ、イヤ頂イタノデアル、寫真デ判ルデアラウ通り下カラ見
ルト單對型ニ見エルノデアルガ上カラ見ルト別ニ變ツタ様ニモ見エナイコト言フ迄モナシ

座論梅(さろんばい)

餘リ珍ラシクモナイガ次ニ座論梅ヲ御覽ニ入レル即チ *Prunus Mume Sieb. var. pleiocarpa* MAMIX. デアル、之
ハヨクアル奴ダガイクラ座論梅デモザラニナイト見え各地デ何レ

モ自分ノ地方ノ
誇トサレル所謂
郷土名物的ノ代
物デアル、大シ
テ珍ラシクモナ
ク心皮ノ數ガ多
クナツタ爲數個
ノ果實ガ一點ニ
集リ座論ヲ試ミ
テ居ル様ニ見え
ルト云フニ過ギ
ナイ既ニ妖怪考

ニ白井先生ノ御紹介ガアルカラ下手ナ駄辯ハ遠慮シテオク
 天南星ノ怪

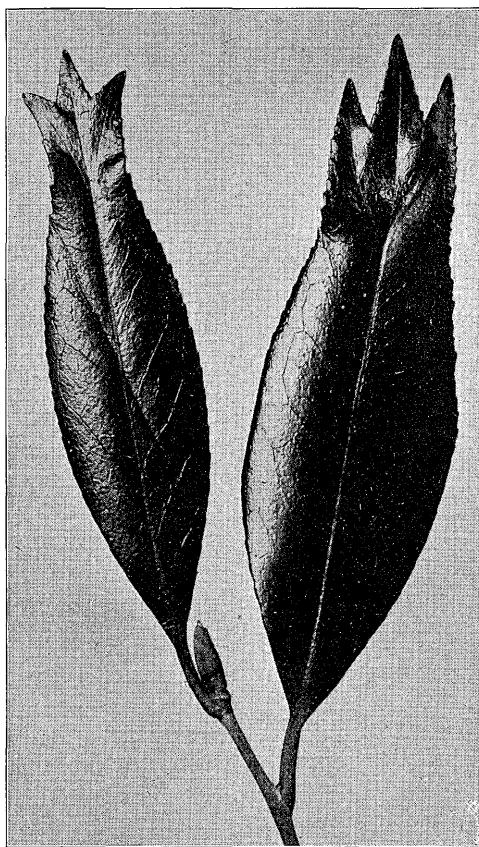
次ニ御見參ニ入レルノハむらさきまむしぐさトあをまむしぐさトノ異様ナ奴デアル、前者ハ東京商大學生久保田禮治君ガ武州八王子ニ採リシモノデ後者ハ余ガ嗅ギ出シタモノデアル
 前者ハ肉穗ガ二個並列シテ相對シ如何ニモ仲ノ好サ相ナ奴デアルガ元來雄本ニ發現シタモノデアルカラ兩方共雄花デアル

後者ハ肉穗花序ハ一個デアルガ寫真デハ見エナイガ棍棒ニ Articulation ガ二ヶ處アル上ニ佛焰苞ガ上下ノ位置



こがまノ咲キ方
 (大谷茂氏撮影)

ニ各一枚宛都合二個アル所
 カラ見テ之ハ前者ト反對ニ花穗ガ上下ニ二個出來タモノデハナカラウカト恐察スルコトガ出來ル兎ニ角變ツタモノデアリマス



金 魚 椿

(大谷茂氏撮影)

がまノ穂

イツデアタツカ本誌ニがまノ穂ノコトヲ書イテヲイタ多分ひめがまデアット思フ

頃者友人大谷茂君ガ前頁ニ掲ゲタ寫眞ヲ送ラレタ、寫眞デ見タ所デハこがまデアラウト思フガ若シ間違ッタラ
牧野先生ガ訂正シテ下サルデアラウ

金魚椿

右ノがまノ穂ノ寫眞ヲ送ラレタ大谷君ガ其レト前後シテ次ノ様ナ寫眞ヲ送ラレタカラ併セテ紹介スルコト、シ

以テ同氏ノ好意ニ報ユルコト
ニシタ

カ、ル現象ノ出現ヲ見ルコト
ハ蓋シ稀デハナク植物ニハ一
般ニ此様ナ通有性ガアルト言
ヘヤウ、マタコノ金魚椿ニ就
テハ江戸時代ノ記録モアルガ
省略スル、尙尖端ノ二又スル
モノハ極メテ普通デアアル

ひまはりノ變異トあか
ばなむしよけぎクトノ
頭狀花ノ癒合

曾テ本誌六ノ九ニシネラリア



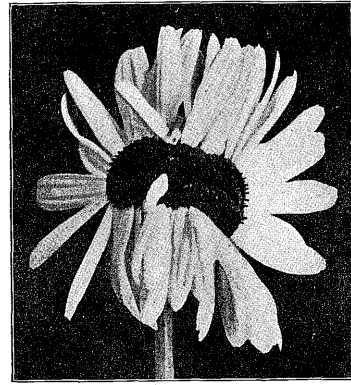
ひまはりの奇形

(久内撮影)

ノ頭狀花序ノ筒狀花群中ニ舌狀花ノ出現スルコトヲ書イタコトガアツタガ之ト同様ナコトガ本年ひまはりニモ起ツタ、其狀上圖ノ通りデアル勿論全部ノ花ニ現レタノデハナク一個ニノミ現レタ現象デアルガ前記シネラリアノ場合ト全ク同一ニ見ラレタ

コノひまはりハ從來ノモノト同一ノ種類デアルガ昔カラ其邊ニアツタモノデハナク昨年歐洲漫遊カラ歸朝サレタ富山藥學專門學校長高橋隆造博士ヨリ分與サレタ種子ヲ播イタモノ、内ヨリ現レタモノデアル、近頃全部舌狀花バカリノひまはりヲヨク見ルガ上ノモノナドモツノ様ニナル前提ト見ラレナイデモナイ

見ルコトガアル、コノ場合ニハ多クハ頭狀花ハ普通ヨリ大キクナルコトハ當然デアリマタ從ツテ花莖ハ扁平ニナリ易イ様ニ思ハレル、次ノ圖ハあかばなむしよけぎクニ出現シタモノデアツテ藥學博士塚本越夫氏栽培中ニ出來シ同氏カラ贈ラレタモノデアル、舌狀花ノ數ハ右ノ様ナ次第デ普通ヨリ多ク且ツ相互間ノ大サ不同デア、マタ中央ニ二個ノ舌狀花ガ筒狀花群中ヨリ出テ居ル様ニ寫眞デハ見エルガコレハ外側ノモノガ内方ニ彎曲シテ來タノデアルカラ念ノ爲メ記シテオク



あかばなむしむけぎくノ頭狀
花ノ癒合
(久内撮影)

花莖ノ撚繞性

次ニハ花莖ノ撚レル例デアル即チねぢばなノ花莖ノ様ナ場合デアルガねぢばなニ於テハ花穂ノ部分ガ撚レルノデアルガ余ノ今述ベントスルノハ花莖部ガ撚レルノデアッテコノ現象ヲ余ガ *Allium striatum* Jacq. ニ於テ見出シタノデアル或ハ病的原因ニ起因スルノカモ知レナイガ發育狀態ニハ別ニ異狀ヲ認メナカッタ

其狀ヲ見ルニ花莖ノ一部ガ一見撚絲ノ様ニ外部カラ見エルノデアル然シテ撚レ合ッテル部分ハ互ニ癒合シテ花莖ノ中心ハ他ノ撚レザル部分ト同ジ様ニ完全ニ中空デアル

コノ爲發育ハ何等妨ゲラレザルモノ、如ク花後ハ立派ニ種子ノ生成ヲ見タガコノ種子カラ出タモノガ如何様ニナリ行クカハ翌年ノ結果ヲ見ナケレバ知ル由モナイ、何レニシテモ面白イ現象故更ニ觀察シテ見タイト思ッテ居ル

もみぢいちごノ萼片ノ葉化

本年春相州箱根瀧坂ニ於テもみぢいちごデ萼片ガ其長サ約二「セ、メ」ニ達シ其形狀全ク葉化シテもみぢいちごノ葉ト同様ナル形狀ヲ呈スルモノヲ得タ、從來花冠葉ノ起原ガ通常葉ニアルコトハ教科書ニ書イテアルノデ何人モ知ッテ居ルノデアルガ今余ノ紹介スル場合ノ例ニ於テ其推考ガ實證サレルコトニナルノデ甚ダ面白イト思フ、シカシコレハ余ノ得タ一個體ニ限ラレタモノデドレデモト云フ譯デナイコトハ勿論デアル、余ハ從來花葉ノ起原ノ説明ハイカニモ頭ノ中デ造リ上ゲタモノ、様ニ思ハレテナラナカッタガコレデ漸ク兜ガヌケル次第デアル